

# JIA徳島地域会・震災対策委員会 第1回WG会議報告

2012.05.29(火) (株)野々瀬建築都市設計事務所会議室

出席者/伊月・内野・中川・野々瀬

災害対策は広範囲に及びますので、WGを設置し、分野別担当制にして専門性を高めた総合的な活動を目指すと共に担当者の負担の軽減をはかります。

第1回WG会議の結果、2012年当面の事業として下記3事業を決めました。本委員会は徳島地域会全員参加委員会として地域会定例会の中で開催します。みなさま、地域会定例会への出席をお願いします。

地道に震災対策の活動を進めて社会の役に立てるJIA徳島地域会らしい活動にしていきたいと思います。また、この活動を通じて、会員の震災対策の更なる高度化をはかりたいと思います。

## ①対外活動と地域会BCPの策定

・徳島地域会BCP策定

・JIA徳島地域会は「とくしま地震防災県民会議」の会員になる。

この会員活動を通じて、県及び会員の活動を確認、把握して、徳島地域会震災対策委員会として何ができるかを検討して、的確な活動計画をたてる。その中で、行政との「災害時における応急対策業務の協定書」の締結や徳島県大規模災害対策士業連絡協議会(仮称)設置などの検討を進める。(参考神奈川大規模災害

・**対策士業連絡協議会** <http://www.kanagawa-saigai.net/>)

担当/伊月

## ②震災支援・応急危険度判定への取り組み

応急危険度判定は建築士として災害対策に取り組む基本です。基本を踏まえることにします。

「応急危険度判定士資格」及び「震災建築物被災度区分判定・復旧技術者証」の取得を地域会会員の全員に近い人をお願いします。地域会で講習会を開催して取得をするなど取得方法を検討してなるべく早く取得を目指します。

・震災時緊急活動・各地の震災に対応

担当/内野、島田

## ③震災自衛対策から防災・減災対策・まちづくり(事前復興等)

南海地震震災対策をリアルな地に足をつけたものにするために、自衛対策からはじめます。自衛できなければ震災対策に出動もできません。自衛をできることはリアルな防災、減災対策もできるようになると考えます。

例えば、事務所のサーバーをクラウドに移転する、事務所や家のエネルギーや水を自立型に転換する、事務所と自邸の耐震総合対策(構造、設備、内装、家具など)を進める・・・などを地域会の衆知を結集して自衛対策をすすめる。

担当/野々瀬・中川

上記の活動を主として進めながら、

●学会等の建築団体との協働及び南海地震災害の想定/新居

・建築学会、建築士会、建築士事務所協会との災害対策協同事業の交渉構築

・建築学会と協働するなど南海地震被害想定のとりのまとめ。

担当/新居(学会支所長であるので)

●仮設住宅など被災対応施設

・仮設住宅など被災地対応施設の開発提供 担当/内野

東北での失敗として、仮設住宅建設用地を事前に選定しておく、仮設住宅の建設は住民意見を聞きリサーチしてから取り組まないで無駄になるケースがあるなどの指摘がありました。このような指摘も整理して、提言をする・・・なども視野に入れる。

※徳島地域会災害対策委員会が5月17日に設置されました。

徳島地域会全員参加の委員会です。

運営のためにWGをつくることになり、当座、伊月、内野、新居、中川、島田、野々瀬が担当することになりました。(WGに参加をご希望される方は野々瀬まで申し込みください。)

